

なかとんべつ 町議会だより

Volume

230

令和7年1月24日発行



1月12日 20歳を祝う会

第4回定例会議決された議案等	3
私たちの一般質問	4
中頓別学園整備事業アンケートの実施	9
まちなか議会カフェの開催、議員だより	10
いきいきふるさと常任委員会、全員協議会	11
行政視察の受け入れ	12
(置戸町議会・大空町議会・占冠村議会・遠別町議会) 議会の動き・編集後記	14



令和6年第4回定例会が、12月11日から3日間の会期で開催されました。

12月11日の招集日には、諸般の報告で、いきいきふるさと常任委員会（長谷川克弘委員長）から4件（老人ホーム長寿園の運営状況、モトマツダの状況、中頓別学園整備事業の進捗状況、町内工事視察としてモトマツダ）の所管事務調査の報告がありました。

行政報告では、小林町長から次の2点について報告がありました。

1. 人生100年の学びの拠点中頓別学園整備工事の入札中止について
2. 治山・林道コンクールの受賞について

町長提出議案については、固定資産評価審査委員会委員の選任同意案をはじめ、専決処分の承認（令和6年度中頓別町一般会計補正予算 令和6年10月1日専決）、一部改正議案が4議案、令和6年度一般会計補正予算ほか7会計の補正予算を原案どおり可決しました。

一般質問では、通告順に6議員（細谷議員、吉田議員、西浦副議長、蓮尾議員、高橋議員、宮崎議員）が、本町が抱える諸問題について、町長に所見を質しました。

また、蓮尾議員により発議された「国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書」案を原案どおり可決し、議会運営委員会及びいきいきふるさと常任委員会から閉会中の継続調査申出を全会一致で決定し、会期を1日残して閉会しました。

第4回定例会で 決まりました



議決された議案等

○ 同意第3号 固定資産評価審査委員会
員の選任同意

12月19日に任期満了を迎える委員を再任
することに全会一致で同意。

字上駒 五家 亨さん
任期 令和6年12月20日

令和9年12月19日

○ 議案第69号 刑法等の一部を改正する法
律の施行に伴う関係条例の整理に関する
条例（一部改正）

刑法等の改正により、刑罰の懲役及び禁
錮を廃止し、拘禁刑が創設されることに伴
い、所要の改正を行うもの。

○ 議案第70号 中頓別町議会個人情報保護
条例（一部改正）

○ 議案第71号 中頓別町立自動車学校運営
に関する条例（一部改正）

近隣の自動車学校の授業料の平均と比較
しても安価のため、入校料及び授業料等を
改正するもの。

また、燃料代及び物価高騰のため少しで
も近隣の自動車学校に足並みを揃えるため、
改正するもの。

○ 議案第72号 重度心身障がい者及びひと
り親家庭等の医療費の助成に関する条例
（一部改正）

令和6年12月2日から現行の健康保険証
が発行されなくなることに伴い、条例の改
正を行うもの。

○ 議案第73号 一般会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ3千5
51万7千円を追加し、歳入歳出の総額は
47億6千790万2千円に。

歳出の主なものは、水道事業で浄水場機
械設備更新工事に伴う運営補助（辺地債分）
1千520万円、児童手当の支給要件が拡
充されたことにより360万円、天北号維
持確保対策補助金262万円などを追加す
るもの。

○ 議案第74号 自動車学校事業特別会計補
正予算

既定の歳入歳出予算総額に変更はありま
せんが、歳出に係る節内の予算の組み換え
を行うもの。

○ 議案第75号 国民健康保険事業特別会計
補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ59万8
千円を追加し、歳入歳出の総額は2億9千
22万5千円に。保険給付費等交付金償還金
を追加するもの。

○ 議案第76号 国民健康保険病院事業会計
補正予算

収益的収支の収入支出既決予定額からそ
れぞれ12万4千円を減額し、総額は5億8

千925万6千円に。

歳出の主なものは、出張医報酬785万
円、派遣看護師報酬160万円などを追加
するものの、給料487万円、手当383
万円などを減額するもの。

○ 議案第77号 水道事業会計補正予算

資本的収支の収入既決予定額に3千30万
円、支出既決予定額に3千33万円をそれぞ
れ追加。浄水場機械設備更新工事に係る収
入支出を追加するもの。

○ 議案第78号 下水道事業会計補正予算

資本的収支の支出既決予定額に28万円を
追加。下水道管理センター水質試験用定温
乾燥機購入を追加するもの。

○ 議案第79号 介護保険事業特別会計（保
険事業勘定）補正予算

既定の歳入歳出予算総額に変更はありま
せんが、総務費、保険給付費及び諸支出金
に係る節内の予算の組み換えを行うもの。

○ 議案第80号 介護保険事業特別会計（施
設介護サービス事業勘定）補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ35万円
を追加し、歳入歳出の総額は2億1千90
3万円に。普通旅費及び広告料を追加する
もの。

※○は原案可決

ここが聞きたい、知りたい

私たちの一般質問

細谷久雄 議員



質問

高齢者の居場所づくりについて

中頓別町の高齢者人口は増加の一途を辿っています。2024年1月1日時点で65歳以上の高齢者は41.0%を占め、人口の2.5人に1人が65歳以上、4.3人に1人が75歳以上であります。

高齢者等が中頓別町で安心して暮らしていくためには、困った時は助けてもらったり、困っている方がいたら助けてあげたり、地域の誰もが気軽に立ち寄って自由に過ごすことが出来る「居場所」や、そこでの人々との関わりの中で得られる「役割」をつくることが求められます。

そのためには、地域住民が身近で気軽に交流することができる場所の提供が不可欠であると考えますが、町長の考えを伺いたいと思

います。

答 弁 ○小林町長

中頓別に住み続けたいと思って頂ける方が最後まで住み続けられるためには、さまざまな支援だけでなく、居場所と役割を持てることが大切だと考えています。

居場所については、公共サービスとして提供できているのは町民センター、保健センター（なかとんカフェ）、ピンネシリ温泉、コミュニティ施設（モトマツダ）などがあります。これらの施設も利用度や使い勝手などはまだまだ課題があると感じています。

今後については、地域の方が気軽に立ち寄って自由に過ごすことが出来る居場所として、モトマツダや中頓別学園など的高齢者等の利用の在り方を考え、地域住民が気軽に交流することが出来る施設について検討していきたくと考えています。

吉田智一 議員



質問

健康診査等の受診率向上にかかる取り組みについて

町民の健康増進について、日々努力されていることと思います。

しかし、各健診の受診状況については、人口減少の影響もあり停滞或いは減少傾向にあると思いますが、受診率を上げ多くの町民の方が病気の早期発見・早期治療を行うことで医療費が抑制され、町の国保事業や後期高齢者医療保険事業等を安定して運営することに繋がっていると思います。

各種健診事業は当然必要ですが、日程の調整が出来なければ受診できない状況になることが想定されます。

事業所等に属さない方が個人で人間ドック等を受診した場合には、町がその経費について助成することで、これまで以上に健診受診者の増加に繋がります。早期発見・早期治療により医療費が抑制されるのではと考えますが、人間ドック等の助成について検討できないか、町長の考えを伺う。

答 弁 ○小林町長

特定健診をはじめとする各種健診については、疾病の予防や早期発見、早期治療に重要な役割を果たすことから、本町ではこれまでも、より多くの方に健診を受診していただくよう、受診環境の整備に努めてきたところ

です。

特定健診は、国の法律によって医療保険が40歳以上の加入者を対象に実施することが義務付けられた健診です。町の国保受診率は、受診勧奨のほか、他の健診を受けている方の結果を特定健診のみなし検診として反映し、令和5年度では58.6%の受診率となっております。

ご質問にあります人間ドックにつきましては、法的な義務はありませんが、特定健診と比べると検査項目も多くさまざまな角度から総合的な体の異常を調べることができるといったメリットがあります。

町民の健康維持、増進の観点から一人でも多くの方が健診を受けていただき、ご自身の健康状態を把握し、疾病の重症化予防のための早期治療を行うことが療養費の抑制にも繋がります。

人間ドックの受診にかかる助成制度については、制度内容は異なるものの、道内の自治体で導入が進んでいますので、本町としても、導入した場合の課題などを整理し、令和7年度からの導入に向け、検討を進めていきたいと思えます。



西浦岩雄 議員



質問

自治会館で災害避難施設に指定されている修理費の補助率について

旭台会館など多くの自治会館が避難場所に指定されており、建物自体が中頓別住民の避難場所となっている。

今後、人口減少から自治体の運営にも支障をきたすことが十分考えられる。自治会館も経年劣化が進み修繕箇所が増加することは容易に想像できる。そこで、現在50%の補助率を引き上げることができないか伺う。

答 弁 ○小林町長

自治会館は、町所有の建物を各自治会に管理運営を委託し、地域交流の場などに活用してもらうためにお願いし

ている。

建物の修繕に要する費用は自治会の負担を考慮し、補助金として町が半額負担しています。ここ数年は、建物の老朽化によりその負担も増加していることも認識しております。

また、建物の多くが災害時の避難場所として指定されているため、建物修繕も含め避難時には室内で生活ができる必要があることから、住環境の整備にかかる補助も進めていかなければならないと考えます。

既存補助率の引き上げや、各自治会館を災害時の避難場所として利用できるように必要な資機材について、助成や補助ができるよう進めていきます。

蓮尾純一 議員



質問

中頓別学園構想の本質の問題を問う町民への向き合い方について

建設の話が先行している学園構想ですが、後から内容を決めるのではなく、内容とその共感を優先した後に建設等を決めるのが当然だと考えますが、いかがお考えでしょうか。最も重要なことが置き去りになっていると考えます。

子どもたちにとって本当に学園構想は必要なのか、構想自体ただの学校の建て替え工事ではないのでしょうか。

また、一般町民も利用ができる生涯学習施設とするとのことですが、すでにモトマツダにて同様の取り組みはされています。空きスペースもある中、改めて建設が必要な意義を説明お願いいたします。

子どもを持つ保護者は、冬場に暖かく勉強する上で問題なく過ごせる環境があればそれで構わないという意見が大半です。建設に対する負担が増加するのであれば、増額し建設する必要はないという意見についてどう考えるかお伺いします。

答 弁 ○大島教育長

中頓別学園の構想や教育理念については、既に関係各所や多くの町民の方

に向けて複数回実施し、話し合いに多くの方が参加しています。また、広報もされています。教育理念、教育課程の柱について、保護者や町民の皆様の説明してまいりました。学園構想については今後も町民の皆様のご意見を受け止めつつ、より良いものになるよう協議を進めてまいります。また、引き続き情報発信を行い、町民の皆様とともにより良い未来に繋がる人生100年学びの拠点づくりを今後も進めていきます。ご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。

再質問

今の答弁では、一方的に行政側が町民に対し説明をしたという既成事実を述べているに過ぎません。捉え方によっては説明しているのに聞いていないほうが悪いと捉えられかねない答弁です。何をどこで説明をしたという事実ではなく、内容の理解が町民から得られていませんよと言っています。

町民の方に学園構想とは何ですかと聞いてください。役場職員にも聞いてください。ほぼ答えられません。皆さんこれは学校の建て替え工事事業だと答えます。

学園構想の本質は学校の建て替えではないはずです。当町で学ぶ子どもたちが他の市町村で学ぶこととは何が

違うのか、それが子どもや当町の未来にとってどのような意味があるのか説明がなされていない現状の中、本事業を実施しなければならぬ意義を見出すことができていません。

町民と交流する空間であれば同様の空間をモトマツダに作ることは可能です。勉強ができる環境があればいい、増額までして建設する必要がないという多くの方の意見についての答弁はただけないのでしょうか。

学園構想から始まる将来ビジョンへの理解が深まることで初めて本構想への理解が深まり、町民は建設費についても同意を唱えるのではないのでしょうか。

答 弁 ○小林町長

今後も説明機会を設け町民の皆様のご理解を得られるよう努めてまいります。当町で育った子どもを育てるには本町がいいと思える教育環境にしたいと考えています。モトマツダについては、市街地と棲み分けて利用すると考えています。建設費増額については具体的な金額の調査を行った上でご理解を得られるよう今後も務めてまいります。

質問

町民との向き合い方について、あり方の変容への対応はできているのか

町長がおっしゃりますは年々参加者も減少傾向にあります。参加者が減少していることを鑑みた上で実施をしているのかお伺いします。例年実施しているから今年も実施するというルーティンワーク化されているのではないのでしょうか。町民における町政への関わりもここ数年で様変わりしてきました。誰かの前で意見を言う、誰かの前で主張を述べると言うのはハードルが高いという方々が増加しています。また、何を言っても変わらないと諦めている人もいます。

町長がおっしゃりますは、過去においては必要であり有用な機会であったと考えますが、時代は変わりました。参加者の減少からもそれは見て取れるかと思えます。時代に合わせ意見や主張を聞く形に変容させることが必要な時期に入っていると考えます。自治会との関わりが薄い町民や町外から転入し足を運びづらい町民、大きな場で話すことが苦手の町民、さまざまな町民がいます。

こういった方々の意見や主張こそ町を支えるものであり、拾わなくては

けないものだと考えます。町民誰もが、気軽に改まることなく意見や主張を長側に伝える手段である要望制度の運用を考える時期が来ていますがいかがお考えでしょうか。

答 弁 ○小林町長

地域懇談会「町長がおじゃまします」は、例年10月頃から2月頃にかけて自治会や各種団体と、町の取り組みについて説明をさせていただくほか、それぞれから課題となっていることや要望事項などをお伺いする貴重な機会として実施しているところです。懇談会の中でいただくご意見、ご要望については担当課に繋げ、速やかに対応できるものについては迅速に対応し、一定の予算を要するものについては予算計上をさせていただきますながら、随時対応してきています。

開催にあたっては自治会や各種団体から実施の意向を聞いた上で行っているところではありますが、自治会との懇談会においては、ご指摘のとおり参加者の減少や固定化といった課題もあることから、次年度に向けては自治会連合会とも相談するなどして実施方法の検討を行うほか、懇談会という場を通じてなくても意見の受け付けと回答ができる仕組みについても考えていきたいと思えます。なお、各種団体との懇談

会については各団体としての要望事項をベースに意見交換を行う機会にもなっていることから、今後も継続的に実施していくことが必要と考えています。

質問

DX化による利便性向上と町職員
の負担軽減の対策は

以前に質問させていただいた後の経過をお伺いします。DXによる効果はサービス受託者側である町民はもちろん、サービス提供側である職員にとっても利便性の高いものでなければなりません。今ある各セクションにおける旧来の業務を町民にとって、どう利便性を高めることができるか、職員負担を減らすことができるかが課題となると考えますが、具体的な進捗、計画があればお伺いします。

本施策は、職員の確保の際に他市町村と比較し働きやすい職場を提供するという側面も持っているほか、退職を食い止めるためにも非常に重要な施策であると考えます。庁内での具体的な取り組みについてもお伺いします。

また、職員の確保や負担軽減につきましましてはカスタマーハラスメントへの対応も必要になっていると考えます。民間企業でもガイドラインを設ける動

きが活発化しており、一部行政においてもカスタム対策のため条例を設けるなどしております。威圧的な言動などは職員にとっては精神的苦痛になっていくものと推察されます。日常業務に支障をきたす将来幹部となる職員の昇格へのモチベーション低下にも繋がると思えますが今のお考えをお伺いします。

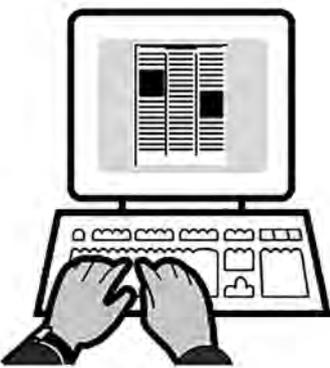
答弁 ○小林町長

DX化につきましては、町民の皆さまももちろん、職員の利便性向上が重要であると認識しています。現在は、中頓別町デジタル化計画に基づき、段階的な取り組みを進めてきています。具体的には、文字起こしシステムの活用、アプリ開発、電子決裁の実証テスト、ペーパーレス化の推進などに取り組んでいます。本年度は、ペーパーレス化、デジタル技術を扱う職員のスキルアップ、会議録の電子化、紙やエクセルにより管理された業務をシステム化し、ルーティーン業務の簡素化等の改善について創意工夫をしているところです。ネット上での各種サービスにつきましては、住民向けアプリの基本部の開発を当年度中に完成させることとしており、現在はテストを行い、より使いやすいシステムの完成を目指しています。また、電子申請については、その

アプリに接続させテストなど行っています。

デジタル技術の進化はとても早く、導入には大変な労力・経費・人手を必要としています。段階的に進めることで、効果的な業務改革を目指しています。デジタル技術による業務の効率化や自動化によって、職員の業務量が削減され、ワークライフバランスの改善にも繋がります。また、DXが他市町村との比較において、より働きやすい職場環境を提供することとなり、優秀な人材の確保や、退職の抑制に寄与するものと期待しています。

カスタマーハラスメントにつきましては、社会的な問題となってきているものであり、職員が安心して働ける環境を整えていく必要があると考えます。これから全国の自治体で条例整備が進んでくると思いますので、当町においても条例の制定に向けて協議を進めていきたいと考えています。



高橋憲一 議員



質問

学校建設の進捗状況について

先の定例会で、建設費用の債務負担に関する議決が行われましたが、その後の進捗状況についてお伺いします。

また、建設資材等の価格上昇による当初予算を超過する場合、計画の延期、見直し、もしくは中止等は考えているのか伺います。

さらに、教育委員会を中心とする中頓別学園移行にかかる人員は十分と言えるのか、職員に過重な負担は生じていないのか伺います。

答弁 ○小林町長

中頓別学園建設につきましては、10月12日付で工事公告を行いました。

一社からの申し出がありました。その後辞退されたため、入札は中止となりました。資材費、労務費等の高騰もあり、今後どの程度超過になるか精査をし、議会への説明、協議をお願いしたいと考えていますが、現在進めている計画が実現できるよう進めていきたいと考えています。

学園移行にかかる人員については、ハード面では役場各課、ソフト面では学校、教育委員会が連携して進めていますが、他の自治体に比べると十分とは言えないため、委託業者等に専門的助言等をいただいで進めています。

質問

DX推進の現在の状況について

町としてDX推進を掲げていると思いますが、現在の進み具合、今後の見通しを伺います。

また、DXによって町民の利便性の向上にも寄与するものと考えられますが、具体的にどのようなものが考えられるのか伺います。

答弁 ○小林町長

中頓別町DX推進計画に基づき着実に進めています。デジタル文書管理のうち、特に住民向けアプリ開発、申請

書の電子化を進めています。

また、キャッシュレスサービスについても、次年度開始を目指しています。住民窓口の行政手続についても、オンライン申請、タッチパネル式申請等の導入を進めて、町民の利便性向上を図ってまいります。

宮崎泰宗 議員



質問

人口減少について

中頓別町の人口は減少の一途をたどっており、今年3月に1,500人を下回った。10月末時点では1,475人となっているが、2022年4月にスタートした現在の第8期総合計画の中では、計画期間中に迎える2030年国勢調査で1,306人を下回らな

いことが目標とされている。第7期総合計画期間中も早い段階で大きな乖離が認められたことから目標を大幅に下方修正した経緯があり、元の目標値からは100人近く減少が進む結果となった。良くも悪くも効果の分かりづらい目標設定となった印象だが、想定を上回る減少が続いていることは明らかではないか。前年度（令和5年度）は年間で60人を超える減少になったと思われるが、令和4年度も50人近い減少であり、令和3年度も40人越えと減少数の増加が続いている。今年度もすでに20人ほど減少しているが、令和2年に改定されたばかりの人口ビジョンにおける来年度で1,500人という目標についても、まだ一年も前の現時点で達成できないことが現実となった状況である。このような状況に陥っていることも含め、短期的に人口の動向を捉えた分析の定期報告等、町民に向けて行政が自主的に行うべきものではないか。減少数増加の要因、まちづくりそのものが町から人が離れていく原因になっていないかなどの検証が急ぎ必要な状況と思われるが、今後の見通しや具体的対策への考えについても伺う。

答弁 ○小林町長

人口予測は統計的予測のなかでもそのとおりになる確率が高いものとされ

ており、そうした予測に対して地域として目標を掲げて対策を講じることの意味は大きいと考えている。目標がやや過大であったかもしれないが、社人研の予測に対しては上方に動いているとの認識である。2023年12月に社人研が公表した将来人口の予測値が前回（2018年）推計より人口減少数が上方修正されたことは、これまでの施策が人口減少の抑制になっているものと受け止めているが、ここ数年の減少ペースの加速に対して強い危機感を感じているところである。2015〜2020の5歳別人口推移をみると、若い世代で比較的維持できているものの、高齢世代での減少が大きくなっている。直近のこうした動向を分析する必要があると考えている。社人研の2023年推計の詳細がわかる報告書を踏まえ、現在の人口ビジョンに掲げた目指すべき将来の方向として、人口減少を食い止めるために掲げた、「転入者の増加」「出生数の増加」「転出者の抑制」の3つの柱の視点でこれまでの点検等を行い、令和7年度において新たな人口ビジョンを策定していきたい考えである。

質問

中頓別学園の建設工事、入札の不成立について

現小学校部分の工事業者を決定する入札が不成立になったとのことであるが、本工事はおよそ54億円にも及ぶ総工事費の大部分を占める本体工事であり、すでに46億円を超える予算措置が行われている。基本設計の段階では35億円ほどで収まるとされていた本工事費は、実施設計を進めていく中で10億円を超える大幅な増額が必要とされたことから今の額を限度として設定されたものであり、この予算の中で収めると町長は議会の場でも明言されている。予算内で収めるよう、中頓別小学校の増改築内容そのものの見直しが必要なのではないか。

予定通り進められると説明されてきた学園の開校、施設整備のスケジュールにも影響が生じるのは必至と思われるが、現段階での中頓別中学校への小学生の引越しの必要性や、今後の方向性については、いかがお考えか。

また、早くも新年度の予算要求の枠を例年以上に狭めているとのこと、住民サービスの低下を危惧するところであるが、この点も含め、今後の対応や見直しについて伺う。

答弁 ○大島教育長

中頓別学園の建設工事にあたっては、広く入札参加者を募る目的で制限付一般競争入札制度を採用して、業界紙や地方紙に入札情報の掲載を依頼する形で周知し、申請期日までに数件の問い合わせがあった中、最終的に今回の入札への参加を表明されたのは、町外企業と町内企業との企業体1社であった。工事費の高騰が続いている現状も踏まえ、できる範囲で業者見積を採用し実勢に近く落札できうる工事費として臨んだが、入札辞退という結果となったため、ひとまず1月に予定していた小学校の中学校への引越しは最低でも3月の卒業式か4月の入学式終了まで延期することとした。職人が多くいる旭川圏、札幌圏からの移動費や宿泊費といった地域特性による増額が見積の中で急増していること、道央で進められる開発事業の影響によって生じるそもそもの人手不足などが要因とのことであるが、中学校、給食センターの老朽化に対して、計画を変更する場合は年単位で時間がかかること、今計画を変更しても町民センターや小学校の大規模改修などいざいざ必要になり、一つの施設にランニングコストを集約させることや新しい施設だから可能な義務教育学校での新たな学びづくり、町民の皆様の学びの拠点づくりは難しく

なるとの判断から、設計については大きくは変えずに進めたいと考えている。

答弁 ○小林町長

学校建設に向けては、これまでと同じような事業費を計上することは難しい状況であるが、住民サービスの低下を起こさないよう事業計画の精査を行い、効率的な予算配分に努めていく。人生100年学びの拠点・中頓別学園が町にとって重要なものであることはこれまでもご説明申し上げてきた通りだが、この基本構想が実現するための対応を進めていきたいと考えている。

質疑・質問は要約されています

スペースの都合上、審議した議案や質疑・質問と答弁の内容を要約して載せています。

会議の内容は、会議録に詳細に記録されており、ご覧になりたい方は議会事務局までお問い合わせください。

お知らせ

中頓別学園整備事業議会アンケートの実施について

町民の皆さんからより多くのご意見をお聞かせいただくため、議会アンケートを実施することにしました。皆様の率直なご意見や素朴な疑問など、どんなことでも遠慮なくお伝えいただきますようよろしくお願いいたします。

詳細については、別紙「議会からの住民アンケート」をご覧ください。

お問い合わせは、議会事務局まで 01634-6-2244 (直通)

まちなか議会カフェを開催します！

町民の皆さまと議会議員の茶話会

日時 令和7年2月2日(日)

2月9日(日)

2月16日(日)

時間はいずれも午後1～5時までの間

※出入りは自由です

場所 モトマツダ (稚内信用金庫中頓別支店向い)



お茶を飲みながらおしゃべりしませんか？
特に中頓別学園についてご意見をお聞かせください！
他にも、くらしのこと、まちのこと、何か困っていること、などなどお気軽にお越しください！

どなたでも
参加できます。
お待ちしております。



議員だより ～私の思い～

この「コーナー」は、それぞれの議員が町づくりや議会活動などについて、
思いを綴るものです。

「民意とは何か」

議会活動をする中で私が大切にしている課題の一つです。一人の町民の意見も民意であり、複数の方々の方々の考えを一つにまとめた意見も民意であると私は考えています。

しかし、民意全てに対して応えるのは難しい現実もあります。一部住民だけの行政サービスや条例となつてはいけない観点からです。

行政の持つ役割として重要なところは平等に行政サービスや条例の効果を受けられるのかどうかであると考えます。

一部住民の民意ではなく、大半の町民が必要であると感じているのか、一部住民の民意であっても町民全体にとっては意義のあるものなのではないか。という判断を議員はしっかり見極めなければならぬと感じています。

現在、私の民意に対する判断と、行政の民意に対する判断について乖離が大きくなっている案件がいくつかあります。俯瞰を高く保ち、本当に持続可能な将来のために民意を反映させていきたいと思えます。



(綴人 蓮尾 純一)

いきいきふるさと常任委員会報告 (10月31日)



いきいきふるさと常任委員会（長谷川克弘委員長）は、所管事務調査を実施し、第4回定例会（12月13日）に報告しました。

調査事項

- ① 老人ホーム長寿園の運営状況について
- ② モトマツダの状況について
- ③ 中頓別学園整備事業の進捗状況について
- ④ 町内工事視察（モトマツダ）

審査意見

① 入居者及び利用者の確保、介護職員等の人材確保に力を入れることが町民負担の減少に繋がると考えますので、そこに尽力できる体制を整えることを望む。

また、当初予算見込みとの差異が生じてきているので、財政状況などの情報提供を求める。

② 特定の人だけが利用しているイメージがある中で、運営及び運用に対しての町民側から見た内容がわからない部分が多く、広報等も見えない人がたくさんいると思うので、広く町民に伝わるような周知徹底など足りていないところの改善を望む。

また、町費をかけて改修した施設がどのぐらい利用されているか今後も調査していく項目になるので、今後も利用状況などの報告を求めるとともに、駐車場の整備や冬期間の除雪などの利便性の向上も望む。

③ 学校建設については、町内への一定の経済効果の期待もあるため今後の工程表などの情報提供を求める。

ホームページで議事録などを公開しています

中頓別町のホームページ

(<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp>)で議会だより、定例会の議事録などを公開しています。

町ホームページから **中頓別町について** ⇒ **中頓別町議会**
又は **行政情報** ⇒ **議会** へ進みご覧ください。

議会はみなさんの暮らし、福祉などの身近な問題を議論する大切な会議です。

議会日程や傍聴の手続き、請願・陳情などのお問合せは、
Tel6-2244（議会事務局）へ。

全員協議会

(12月3日、27日、1月7日、9日)

(協議事項)

中頓別学園整備事業について

行政視察の受け入れ

10月4日にオホーツク管内置戸町議会総務常任委員会（嘉藤均委員長他8名）、10月22日にオホーツク管内大空町議会総務厚生常任委員会（岩原繁委員長他8名）、10月24日に上川管内占冠村議会（児玉眞澄議長他9名）及び10月31日に留萌管内遠別町議会総務産業常任委員会（山本仁美委員長他9名）による行政視察の受け入れをそれぞれ行いました。

置戸町議会では、本町の「中頓別町特定地域づくり事業協同組合の運営状況について」の取り組みを、大空町議会では、「地域交通について」の取り組みを、占冠村議会では、「ライドシェアについて」、「介護福祉施設運営の行政による直営化について」の取り組みを、遠別町議会では、「特別養護老人ホームの町営化の経緯と課題について」の取り組みの視察が行われました。

置戸町議会総務常任委員会行政視察の様子（10月4日）



（参加議員 計4名）
星川議長、西浦副議長、宮崎議員、
長谷川議員

大空町議会総務厚生常任委員会行政視察の様子（10月22日）



（参加議員 計8名）
星川議長、西浦副議長、宮崎議員、
長谷川議員、細谷議員、高橋議員、
吉田議員、蓮尾議員



占冠村議会行政視察の様子 (10月24日)

(参加議員 計7名)
星川議長、西浦副議長、宮崎議員、
長谷川議員、高橋議員、吉田議員、
蓮尾議員



遠別町議会総務産業常任委員会行政視察の様子 (10月31日)

(参加議員 計8名)
星川議長、西浦副議長、宮崎議員、
長谷川議員、細谷議員、高橋議員、
吉田議員、蓮尾議員

あなたの写真を表紙にしませんか？

中頓別町議会では、町民の皆様が撮影した写真の募集をはじめます。応募いただいた中から選考し「なかとんべつ町議会だより」の表紙とさせていただきます。

応募資格 中頓別町在住の方

募集内容 人物、風景など中頓別町で撮影したもの。中頓別町の魅力や元気が出る写真を募集します。

応募方法 下記アドレスに、件名を「なかとんべつ町議会だより表紙写真」と書き、連絡先（電話番号、氏名、住所）を記入の上、写真を送付してください。



gikai@town.nakatombetsu.lg.jp

募集は随時しております。不明な点は議会事務局（6-2244）まで連絡してください。

議会の動き

10月

- 31日 遠別町議会行政視察
いきいきふるさと常任委員会所管事務調査

11月

- 3日 中頓別町文化スポーツ表彰授賞式
12日 衆議院議員武部新先生との意見交換会
(東京都)
13日 第68回町村議会議長全国大会(東京都)
29日 議会運営委員会

12月

- 3日 全員協議会
議会運営委員会
11日～12日
第4回定例会
19日 南宗谷消防組合議会定例会(枝幸町)
20日 寿スキー場安全祈願祭
27日 全員協議会

令和7年1月

- 4日 新年交礼会
5日 南宗谷消防組合中頓別消防団出初式
7日 全員協議会
9日 議会広報編集特別委員会、全員協議会
12日 20歳を祝う会
16日 議会広報編集特別委員会
21日 宗谷町村議会議長会定期総会(稚内市)



20歳の決意を述べる成人代表の村山快凌さん

用語解説

「全員協議会」(ぜんいんきょうぎかい)

議員全員で行うもので、町長などから報告や説明を受けたり、意見を述べたりします。
議員のみで協議する場合もあります。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

今年の冬は、異常気象の影響で例年より降雪量が多くなるとの予報がありましたが、ここ中頓別でも、12月5日には48時間降雪量が48cm、12月14日には最低気温19.5度と全国版のニュースになるなど、12月前半から今年の冬の厳しさを予感する出来事がありました。

また、例年よりも早い時期から全道的にインフルエンザなどの流行があり、経済面では物価上昇による食料品等の価格高騰や国の補助金打ち切りによるガソリン代、灯油代の値上がりで私たちの生活がより厳しくなりました。

毎日の除雪で体力が低下しがちですが、待ち遠しい春に向かって、風邪などに負けないよう十分気を付けて厳しい冬を乗り切ってください。



議会広報編集特別委員会(吉)

議会を傍聴しましょう

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な場です。

議会では、議会だよりで情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。

次の定例会は、3月に招集されます。日程は、議会だより臨時号などでお知らせします。

多くの町民のみなさまの傍聴をお待ち申しあげております。

発行 中頓別町議会／編集 議会広報編集特別委員会
〒098-5595 北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6
tel (01634) 6-2244(直通) / fax 6-1155